



平和資料館 草の家だより

No.99

2008年6月1日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@mal.seikyoku.ne.jp http://hal.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori

幡多に軍港はいらない

安藤真 (四万十市西土佐)

去る5月21日朝(26日まで)例によって十分な事前通告なしに米軍のイージス艦「オカーン」は高知県西部(幡多地方)の宿毛にやってきました。

着岸港一帯は大きなコンクリートの塊で囲まれ、しかも見物場所(ゲート)から200mも離れており、駐車場にいたっては1kmほどの場所で周囲はあらゆる所に機動隊がニラミをきかせていて、とてもじゃないが「親善と友好」の寄港というお題目は白々しい。6日間の停泊は明らかに常態的な軍事利用に向けた米軍の布石だと思います。

愛媛県西南地方、高知県幡多地方では最近2つの平和運動がありました。1つは、1年前の今頃、宇和島港にハワイから双胴のカヌー船「ホクレア号」が寄港して、乗組員の皆さんが、以前ハワイ沖で米軍の潜水艦に体当たりされて、沈められた「愛媛丸」(宇和島水産高校練習船)の乗船者の遺族・生存者の方々と慰霊碑の前で再会し、日米の平和交流を誓いあいました。(日米の民間交流はゲニ大切です)。

そしてもう1つは、今年の4月、四万十市中村で、主演の吉永小百合さんを迎え「母べえ」の自主上映会があり、上映後吉永さんが戦争のおろかさ、むなしさ、平和の大切さをこの映画を通じて知ってほしいと強く訴えられました。

私たちは宿毛にもピースウェーブを起こしてゆかねばなりません。そして、平和な幡多・南予地方をつくろうではありませんか。

追記:宿毛中心街の銀行の前の横断幕の「Welcome USS O'kane」を「お金・歓迎」と思わず読んでしまいました。いいえて妙!!



イージス艦寄港反対運動に参加する市民

写真・奈路広

